

## 第16回甲府市中心市街地活性化協議会議事録

1. 開催日時 平成25年12月24日（火） 午前10時～
2. 開催場所 甲府商工会議所 4階 401会議室
3. 出席者 14名（委員18名中、本人出席13名、代理出席1名、欠席4名内委任状提出者2名）
4. 事務局 LLCまちづくり甲府 企画担当 渡井 賢一  
業務担当 佐藤 浩
5. 議 事 報告事項  
委員の変更について  
協議事項  
1) 委員の変更に伴う会長の選任について  
2) 中心市街地活性化基本計画骨子（案）の検討について

### 6. 議事要旨

司会が開会を宣し、望月会長から「甲府商工会議所の役員改選に伴い当協議会の会長を退任することになった。本日は会長の選任について協議するとともに次期計画の骨子（案）について忌憚のない意見をいただきたい」旨の挨拶があった。

その後、規定により望月会長が議長に就任し、議事を進行した。

報告事項 委員の変更について

議長の求めにより、委員の交代について事務局から説明を行った。

協議事項 1) 委員の変更に伴う会長の選任について

議長は会長の選任方法について議場に諮ったところ、出席委員から「歴代甲府商工会議所の副会頭に当協議会の会長に就任しているので、前例に従い進藤副会頭に就任してほしい」旨の発言があり、議場に諮ったところ全員一致で可決された。

続いて、会長に就任した進藤委員から就任あいさつがあり、望月前会長に代わって議長に就任した。

協議事項 2) 中心市街地活性化基本計画骨子（案）の検討について

議長は、山本知孝甲府市副市長に対し、甲府市が策定を進めている次期の甲府市中心市街地活性化基本計画について説明を求めた。

この求めに応じ、山本知孝甲府市副市長はまちづくり甲府の代表社員職務執

行者に就任した経緯、甲府市中心市街地活性化基本計画の位置づけについて説明した。

引き続き、今回の甲府市中心市街地活性化基本計画骨子（案）の概要について甲府市企画部まちづくり課から説明があった。

議長は甲府市から説明のあった甲府市中心市街地活性化基本計画骨子（案）に対する意見を議場に求めたところ出席した委員から下記の発言があった。

意見①： 中心市街地活性化基本計画の第1期が望月会長のリーダーシップにより、課題はあるにせよ順調に進展したと感じている。

昨日の日本経済新聞の春秋欄に東京湾近くに出来た大型のショッピングモールを歩いた記者のコラムが載っていたが、一つのヒントになると感じたので紹介したい。ショッピングセンターの魅力で、あらゆる商品や娯楽が揃っていて、多くの人で大混雑をしている。こうした状況が、地方の若者が地方にこもるといふ現象に相通じていると言っている。

しばらく前は東京が魅力で、つまらない地方より東京へ行くという若者の志向があったが、今は地方の田園地帯に大きなショッピングモールができ、買い物も不自由しないし、映画やボウリングといった遊びも充実している。わざわざ東京へ行かなくても地方で十分満足できる状態にある。ショッピングモールを歩きながら考えていた筆者が、ただ、楽しさと便利さだけで良いのかと心配になったと記している。これは、歴史と文化がこれから問われてくると、私は、文章を読みながら感じた。

そんな中で、甲府の中心街は商業があくまで中心ではあるが、先ほど市からも説明があったが、三つの時代を経過した非常に貴重な文化財が残っている。象徴的なものは「甲府城」であるが、周辺には市が歴史公園を造ったが、市内にはまだ発掘されていないような文化財が残っている。

現在の計画にも歴史や文化にふれるまちづくりという視点は入れているが、やはり甲府の特徴として商業がポイントではあるものの、周辺には無い強みである。今、消費者を集めているショッピングセンターには無い強みという点、やはり歴史や文化をしっかりと見直して、特徴を出していく必要があると思う。

余談ではあるが、先日ある経済団体の青年部の講師にきた、若い都市計画のコンサルタントの話では、東海道新幹線が出来たときの話をし、新幹線が出来た前は、東京と大阪の株式の市場が10対7だったのに、新幹線が出来て、10対1になってしまったという。さらに東京に集中した結果になったわけだが、格段に集客の伸びた駅が一箇所だけある。それは、京都であるという話がありました。東京には無いものを持っている京都が格段に伸びているという話があった。

この骨子（案）の中にもうたっているが、歴史的な蓄積を持っている甲府市の歴史と文化、それから今進んでいる甲府城にもポイントを置いて交流人口を増やす。

そして中心街にマンション建設し、定住人口を増やす。それが、商業の進

展につながって行き、更には中心街全体の活性化につながるのだと思う。

意見 ②： 今年訪日の観光客が一千万人を超えると聞いている。そうした中で、グローバルの中の甲府市という位置づけが、この計画には見えない。

グローバルな社会で生き残っていくための甲府市はこういう街である、という視点をもっと強く打ち出してほしい。郊外と中心街というようなレベルで甲府の街を考えていると、存在の意味がないと私は思っている。

併せて、先ほどの発言の中にもあった、甲府の歴史、文化、自然、産業は、海外の人に喜んでいただけるのかということ。海外からの観光客が来るということは、当然国内の観光客も来るので交流人口が増え、中心街の活性化につながって行く。そのあたりのことも念頭に計画を策定してもらいたい。

意見 ③： 駐車場の問題は中心街では重大な問題で、皆さんどこに行くにも車で出掛ける状態である。そのような中、甲府駅北口周辺には 30 分無料の駐車場があるが、それは、どこが負担をしているか。どういう仕組みで無料になっているのか、今後南口にも波及していくのかを伺いたい。

意見 ④： 私はもう少し象徴的な事業や項目があっても良いのではないかと思います。

この中に目標や具体的な項目があるが、それぞれの項目に結びつけた象徴的なものがあると、外部からも理解しやすいと思う。

例えば甲府城周辺を整備するのであれば、周辺に大きな広場や公園等を造ってみる。ヨーロッパでは、街の中心に広場があり、休日には人が集まってくる。ヨーロッパでなくても、隣の甲斐市では、各地に中規模の公園を整備しており、休日は家族連れで随分賑わっている。冬の時期でも同様であることからすると、甲府の中心部にも多くの人が集まれる大きな公園や広場があるとのおおずと多くの人が集まってくるのではないか。全国に名が通るようなイベントを呼んでくるためにも、こういったスペースは必要である。

何かそうした象徴的な事業を各分野において皆さんに提示をして、それに賛同を得ながら計画を進めていくと、もう少し皆さんの注目も集まってくるように感じる。

意見 ⑤： 中心商店街の柳町で道路を拡幅したところ、店舗がなくなってほとんど駐車場になってしまった。私は駐車場の経営に携わっており、こんなにたくさん駐車場があって、誰がこんなに来るのだろうと思ってしまう。単に駐車場が増えるようなことではなく、もっと魅力あるプランが出てくることを望んでいる。

そもそも中心商店街の向かうべき方向が分かりにくくなっている。定住人口を増やすということは、地域に暮らす個人向けの商業が活性化するわけであるが、交流人口というと非日常の人たちが来るという、いわば晴れの舞台をつくるということになり、どちらかといえばこちらが中心商店街の役割だと思う。何で魅力をつくって何で人を惹きつけるのか、皆で考えていかないと中心街は持続していけないのではないかと思います。

意見⑥： 日常と非日常のお話があったが、いろいろ人から中心街に映画館がなくなってしまって非常に寂しいという意見を聞いている。私自身も映画が好きなのだが、この中心街に映画館が無いので、ここ何年か映画を見ていない。同様に買い物も地元ですと決めている。

やはり、中心街で暮らしている方々にとっても歩いて2、3分で行けるところに映画館があったのに、今は無くなってしまったのは非常に寂しいことであると思う。そういう意味で、ここに居住している方が楽しいまちでなければ、外からなかなか人は来てくれないと思う。定住人口が増えるということがこの先にはあるのかも知れないが、今暮らしている方々が、ここで満足する暮らしが出来る。楽しみが満たされる。あるいはより良い生活が出来るといったまちにしていくことが、まず、第一ではないのかと考えている。

議長は他の意見の有無を確認し、「今回、計画骨子（案）の説明をしていただき、本当に一つ一つがきちっと実現していけば、中心市街地の活性化が実現していくとは思いますが、一遍には全てを達成していくのは困難なので、一つ一つを着実に現していけば良いと思う。今日は多くの意見が出ましたが、今回この計画に記載されている事業以外でも新しい魅力ある事業もあると思うので、それらは追加事業としてその都度、計画の中に取り入れていただきたい。」旨発言し、議事を終了した。